

114
A4578



辛未十月廿二日ヨリ廿四日ニ
至リ華族一家ノ主タルモノ一
人ツ、被為召勅諭

朕惟フニ宇内列國開化富強ノ称アル
者皆其國民勤勉ノ力ニ由ラナルナレ
而國民ノ能ク智ヲ開キ才ヲ研キ勤勉
ノ力ヲ致ス者ハ固リ其國民タルノ本
分ヲ尽スモノナリ今我國旧制ヲ更革
シテ列國ト並馳セント欲ス國民一致

正十一年四月
張侯爵印



勤勉ノ力ヲ尽スニ非レハ何ヲ以テ之
ヲ致ス^テ得ンヤ特ニ華族ハ國民中
貴重ク地位ニ居リ衆庶ノ属目スル所
ナレハ其履行固リ標準トナリ一層勤
勉ノ力ヲ^{致シ}率先シテ之ヲ鼓舞セサルハ
ケンヤ其責タルヤ亦重シ是今日朕カ
汝等ヲ召シ親ク朕カ期望スル所ノ意
ヲ告クル所以ナリ夫レ勤勉ノ力ヲ致
スハ智ヲ開キ才ヲ研ヨリ外ナルハナ

シ智ヲ開キ才ヲ研ハ眼ヲ宇内開化ノ
形勢ニ着ケ有用ノ業ヲ修メ或ハ外國
ハ留学シ實地ノ学ヲ講スルヨリ要ナ
ルハナシ而年壮ヲ過キ留学ヲ為シ難
キ者モ一タヒ海外ニ周遊シ見聞ヲ廣
ムル亦以テ智識ヲ增益スルニ足ラン
且我邦女学ノ制未タ立タサルヲ以テ
婦女多クハ変理ヲ解セス殊ニ幼童ノ
成立ハ母氏ノ教導ニ関シ實ニ切緊ノ

夏十レハ今海外ニ赴ク者妻女或ハ姉
妹ヲ挈テ同行スル固ヨリ可ナルトニ
テ外國所在女教ノ素アルヲ曉リ育兒
ノ法ヲモ知ルニ足ル可レ誠ニ能ク人
々此ニ注意シ勤勉ノ力ヲ致シハ開化
ノ域ニ進ミ富強ノ基随テ立列國ニ並
馳スルモ難カラサルヘシ汝等能ク斯
意ヲ体シ各其本分ヲ尽レ以テ朕カ期
望スル所ヲ副ヘヨ

答書一通

謹テ明治四年ノ勅諭ヲ按スルニ華族ハ
國民中貴重ノ地位ニ居リ庶民ノ矚目スル
処ナレハ其履行固リ標準トナリ一層勤勉
ノ力ヲ致シ率先シテ之ヲ鼓舞セサル可シ
ヤト茲ニ公等此聖意ヲ奉体シ會館ヲ創
立シ同族会同ヲ與シ以テ学識ヲ研究セン
ト欲スルノ主意書ヲ示サル通函ノ下感発
ニ堪ベス惟フニ華族ノ勤勉シテ庶民ノ標



準トナルモノ此挙ヲ以テ先務ト為スヘシ
実羨不肖ヲ以テ維新ノ運ニ遭遇レ顯職ヲ
負荷シ且祖先ノ餘烈ニ賴テ同族ニ列スレ
ハ敢テカヲ尽シテ賛成セサル可シヤ而シ
テ今館ヲ創立スル其經費タル固リ謝ナカ
ラサルヘシ仍テ別記ノ金額ヲ出シ之カ資
ヲ助ケ耶カ同志ノ意ヲ表セント欲ス冀ク
ハ今館ノ規模月ニ盛ンニ同族ノ智識日ニ
進ニ以テ勅諭ニ副ヘテ罷眷ニ答ニテ

敬テ白

明治七年五月六日

大掌典正三位慈光寺有仲

式部察事出仕兼掌典大吟言位盛道賀

侍從從五位北条氏恭

侍從從四位西辻公業

侍從正四位富小路敬直

侍從從三位高辻修長

侍從正三位堀河康隆

陸軍少佐後五位大河内正實

外務省六等出仕四位大原重実

式部權助兼太掌典後三位橋本実梁

三等議官兼式部寮五等出仕後四位大給恒

愛知縣令四位鷲尾隆聚

外務大丞後四位宗重正

京都府知夏正三位長谷信萬

陸軍少將正四位四条隆訶

式部頭後三位坊城俊政

侍從長後三位東久世通禧

宮内大輔正三位萬里小路博房

特命全權公使正四位柳原前光

宮内卿兼侍從長三位德大寺実則

右大臣正二位岩倉具視

左大臣後二位島津久光

太政大臣後一位三希実美

後二位中御門閣下

別啓一通

一別紙同録ノ金千両資取ハ本文記載候通
會館建設ノ羨奉感弁ノ餘リ乍聊經費ノ
万一ニ補充候儀ニテ規則上ニ載スル処
保証ノ用費ニ関係セス全ク特別ノ微意
ニ候夏

一規則上ニ載スル一時及保証ノ入費ハ御
都合次第在官各名ハ各區受持人幹夏ヨ
リ御取立可被成候夏

一在官七等以上ノ内ニテ四條陸軍少將長

谷京都府知夏鷲尾愛知縣令ハ主意書及
通達候処同意ニ候但レ仮規則書未タ相
廻レ不申五辻式部助綾小路侍後東園侍
從ハ当今不在京ニ付追テ相尋否ヤ可申
進候夏

一奏任ニテ武官八九等奉職ノ難波陸軍中
尉唐橋陸軍少將京極海軍少尉池田陸軍
少將試補及判任官神官教導職ノ輩ハ総
テ會館ヨリ御直訴可被成候夏

右為御心得及申啓候也

岩倉 具視

五月六日

島津 久光

三條 實義

中御門從二位殿

目録

金千円

在官同族見之書一通

長谷京都府知夏鷲尾愛知縣令其他之所在

勤ノ向米金ノ儀ニ付見込ヲ今頭へ陳ス

保儀并經費出金取立ノ儀ハ區割受持ヨリ

傳達アルヘシトノ夏ナリ在官見込書ハ別

記ス

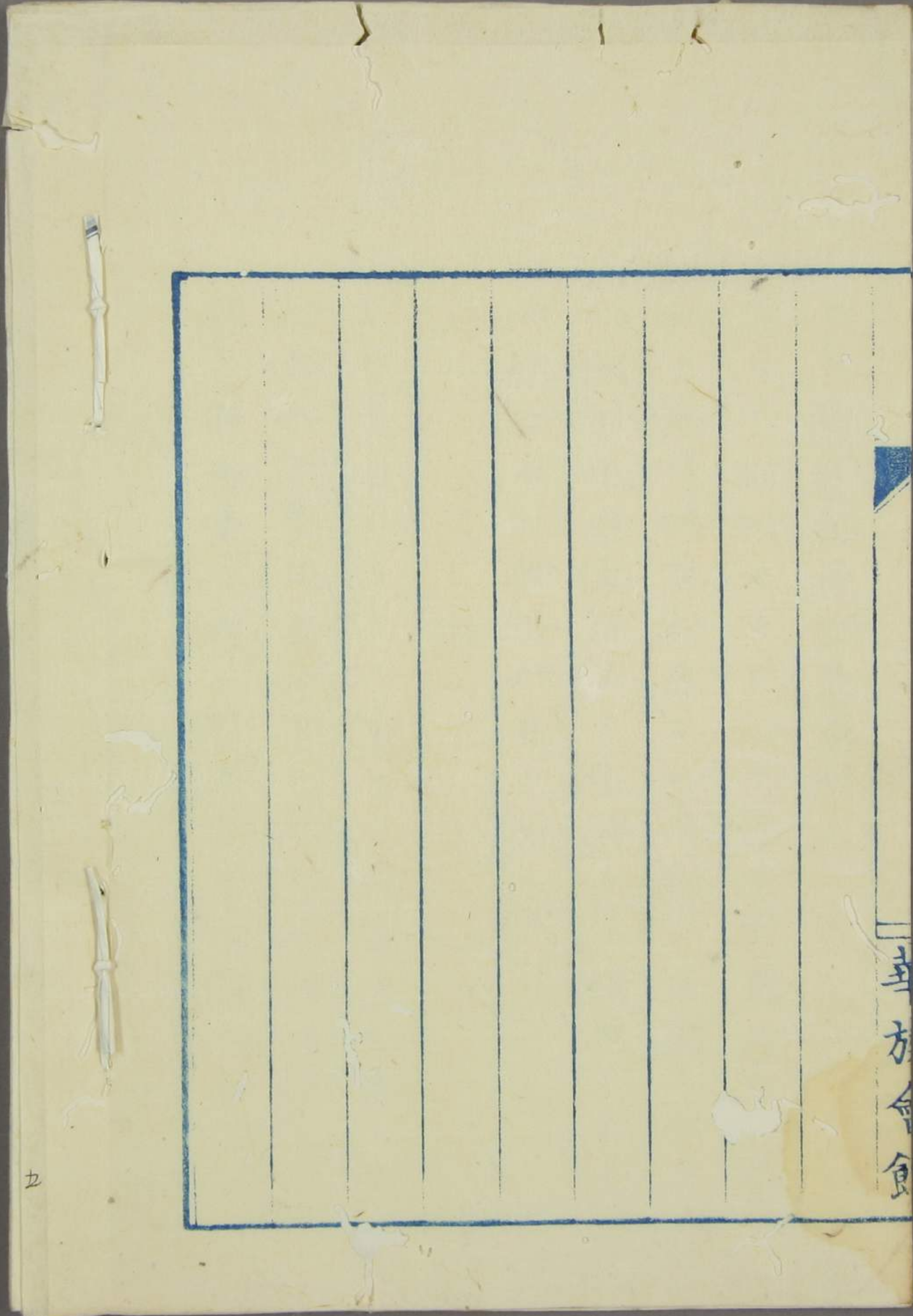
明治七年七月十八日々記ノ内

杉浦詮未館金百円ヲ本館ニ寄附セルコトヲ

請フ蓋シ即今除名スルト雖モ本館ノ本旨

素ヨリ欣仰スルヲ以テ聊カ微志ヲ表ハナ

リ下館長乃千之ヲ受納ス



華
方
會
食

客年師同族師集會主トシテ書籍館師建
設ニ倚有之也旨示未ト師著手ノ抄子
不及甚遺憾ニ奉存也何卒唯今ヨリ其端
緒ヲ師開相成先僅々ノ書籍ト虽モ此ニ
貯藏シ漸次歲月ヲ逐テ各書ヲ師購
集終ニ大成ニ至リ茲得ハ國家ノ裨益
モ不少ト切ニ希望致シ茲若師著手相
成茲得ハ聊カナカラ舊主家ノ藏書千卷并ニ

金貳千圓法叔立、市助勢、ハシテ寄附
致長子、奉存、如何分、ニテ市評、ニテ持、ニテ秉
仕度、ニテ也

八年正月廿日

勝 安芳

華族會館中

書籍

千卷

冊數

漢籍千貳百九本

洋書千八百五拾一本

右勝安芳、リ舊主家徳川家達

藏書、ヲ寄附ス

外、金貳千圓添

明治八年一月

書籍館御建設、倭追々御着手相成候趣承
り、方々賀され候、遂々盛大に至り候、國宗ノ裨
益不々依而精力集り所ノ和漢書書籍三千卷
耶ナラウ寄附仕方且取其内陳編齋套ニ属スル書
可有之候得共是亦考古ノ一証ニモ可相成何分ノ御
評議庶幾候也

明治八年三月

松平頼聰

會館御中

記

一和漢書籍 三子卷

八年三月 松平頼聰

書籍寄附人名

書籍局

書籍局



記

明治七年二月山内豊城寄附

萬國全圖

壹軸

明治七年六月徳川昭武寄附

大日本史

貳百本

明治七年七月五條為栄寄附

類聚國史

三拾本

明治七年七月醍醐忠順寄附

臣軌

貳本

泰西國法論

四本

勸善訓蒙

三本

明治七年十月醍醐忠順寄附

會議辨

壹本

明治七年十月竹腰正美寄附

十三經注疏

百五拾壹本

明治八年一月堀田正艱寄附

康熙字典

四拾壹本

明治八年一月旧主家徳川家達藏書
勝安房寄附

漢籍

千貳百本

洋書

千六百拾本

明治八年二月本庄宗武寄附

二十一史

三百九拾本

明治八年二月土方雄志寄附

洋書

三拾本

明治八年三月松平頼聰寄附

和漢書籍 三千本

明治八年三月土岐賴知寄附

資治通鑑 百四拾本

明治八年三月醍醐忠敬寄附

律書訓解 三本

明治八年三月本多忠母貞寄附

延喜式 九拾本

佛蘭西民法 拾六本

佛蘭西憲法 壹本

同訃訟法 八本

同刑法 五本

明治八年三月毛利元敏寄附

洋書 八本

明治八年四月川籍智實文寄附

歐羅巴洲全圖 壹卷

明治八年四月尾崎三郎寄附

英國成文憲法 貳本

明治八年四月竹腰正美寄附

日本外史

拾貳本

西洋事情

拾本

明治八年五月京極高德寧附

六國史

八拾本

明治八年七月武者小路實世寧附

資治通鑑綱目

百貳拾本

明治八年九月粹原政敬寧附

脩身學

五拾本

惣計七千四百四拾六本

華族會館

往日臨幸親シク

初諭ヲ蒙リシ以来同族一般本館ニ從受レ悵
同 皇室ニ尽サントス實ニ感悦ノ至リト云ヘシ然レ
ニ光昭生薄才多病且年齒ヲ重子今ニ奮
勵勉カスルモ恐クハ糠粃ニタモ屬セサラシクヲ依
テ本館事業振興ノ一端ニ充シカ为メ此此ウシ
金田ヲ納メ聊衷情ヲ表セトス宜シク金額ノ
微トルヲ捨テ意衷ノ切ナルヲ准及シ納收



ア、イ、ウ、エ、オ、カ、キ、ク、ケ、コ、サ、シ、ス、セ、ソ、タ、チ、ツ、テ、ト、ナ、ニ、ネ、ノ、ハ、ヒ、フ、ヘ、ホ、マ、ミ、ム、メ、モ、ヤ、ユ、ヨ、ラ、リ、ル、レ、ロ、

八年十月三日

柳澤光昭

特選後官 秋月種樹殿

記

一金貳拾五圓也

右列紙之趣意ヲ以納金仕大也

八年十月

柳澤光昭

皇上臨幸ヲ辱フセシ以來殊ニ同族諸君ノ
舊厠本館ヲ振興ニ共事業ヲ張完スル
ニク優渥ノ聖諭ニ報答スル所以ニシテ不自
固ヨリ感銘ニ堪サルナリ只憾々寸識渺短カフル
身教門ニ後事スルヲ以テ專ラ敏事ニ周旋シ
能ハサルヲ且本年家祿下賜ノ恩典アリト雖凡
國用多端ノ時ニ際シ之ヲ悉受スルニ志ヒス
曾教後嚙施ノ餘資ニ自食セテヲ請ヒシ
ニ口幸ニ之ヲ允許シタマヘリ之ニ録テ本館

資金ノ定例ニ准スルヲ得トモ凡巳ニ其盛意ニ
感激スル美ヲ賛成ノ寸衷ヲ表セサルハ
此ニ聊消疾ノ資ヲ寄セラシ経費ノ方ヲ供セ
ニテヲ冀望ス

明治八年十一月九日

後任大谷光尊

特撰後名

後一位中山忠能殿

一金百圓

當納

一金五十圓

赤九年ヨリ毎年修納

右ハ華族會館、別紙ニ趣ヲ以テ納金
被度也

明治八年三月九日

後任大谷光尊

特撰後員

後一位中山忠能殿

華
方
會
會

龜井茲監ノ書寫

聖上辱クモ華族會館エ
臨幸アリテ親シク
勅諭ノ篤ヲ蒙ル實ニ感激ノ至ニ勝ヘス愈勉
勵本館ニ從事シテ心力ヲ竭サントス然リト
雖短才無識年齒ヲ重ク恐クハ無用ニ屬セ
ンヲ聊納金シテ館費ニ備ヘ事業ヲ振起セ
ク志趣ヲ推察シ收入アラシクヲ希望ス
八年十一月二日 龜井茲監

金百圓

右者華族會館エ別紙旨趣ヲ以テ納金致
シ度希入候也

明治八年十一月二日

龜井茲監

十二部特撰議員

秋月種樹殿

返書

閣下
聖諭ノ優渥ナルニ感激シ愈勉勵以テ這館ニ
從事セントス而シテ自ラ這館振興ノ事ヲ賛
成スルノ力微ナルヲ慨シ館費ヲ裨補シ事業
ヲ振起セン爲メ本館資金ノ制定ルヲ俟タス
特志ヲ以テ先ツ金一百圓ヲ寄附ス其意ノ注
告ルニ其盛意ヲ以テスヘシ因テ答謝ス

十一月十七日

龜井茲監殿

華族會館副長

壬生基修

明治八年十月七日華族會館エ

臨幸 勅諭

朕茲ニ親臨シ。汝衆華族ニ宣示ス朕曩ニ
汝衆ニ諭スル所アリ汝衆能ク朕カ旨ヲ
體シ昨年中同志ヲ會合シテ斯館ヲ創立
シ以テ國家ニ報効スル所アラントス朕
甚タ之ヲ嘉ニス汝衆華族一般嗣後此館
ニ從事シ協同勉勵學術ヲ研精シ其目途
ヲ宏遠ニ期シ爾ノ履行ヲ端クシ爾ノ家
道ヲ齊エ能ク名聲ヲ保テ永ク皇室ニ盡
ス所アレ

三大臣エ 勅諭

朕本日茲ニ親臨シ衆華族ニ宣示スル所
アリ汝實美久光具視職務ノ傍ラ朕カ意
ヲ體シ華族一般ヲシテ途ニ就カシムル
ノ事ヲ圖レ

華族會館發起人

- 中山忠能 松平慶永 嵯峨實愛
- 大原重德 中御門經之 伊達宗城
- 池田慶德 毛利元德 正親町公董
- 五條爲榮 壬生基脩 平松時厚
- 秋月種樹 川鱒實文 山内豐誠
- ノ十五名エ 勅諭

汝等朕カ意ヲ推擴シ首倡斯館ヲ創立ス
朕之ヲ嘉ニス今後彌以テ勉勵セヨ

宮内省ヨリ達書

東京第三大区一小區永田町二丁目二番
地舊二本松邸建物華族會同ノ爲メ一同
エ下賜候事

明治八年十月七日

宮内省

全

本日病氣其他無據事故有之不忝ノ節名
代相賴候者エハ

勅諭ノ趣其他名代人エ可相達事

西京及各府縣エ散在旅行并海外留學ノ
華族エ 勅諭ノ趣無洩可通達事

明治八年十月七日

三條大臣衆華族ニ代リ奉答

臣等曩ニ 勅諭ヲ推擴シ斯館ヲ創立シ
以テ同族ノ國家ニ報効スル所アラント
ナ圖ル今忝ク 陛下ノ親臨ヲ賜ヒ特諭
ノ篤ヲ拜ス臣等感激ノ至リニ勝ヘス臣
等謹テ 聖意ヲ遵奉シ益以テ協同勉勵
シ 皇室ニ盡ス所アルヘシ臣實美衆ニ
代テ謹テ奏ス

勅諭遵奉誓詞

謹テ 勅諭ヲ遵奉シ協同勉勵會館ニ從
事シ永遠服膺誓テ聖眷ニ對答セントス
即チ茲ニ會盟以テ證印ス

明治八年十月七日

在官同族ヨリノ來書寫

先月七日

天皇陛下辱ナク該館ニ臨幸シ華族一般協同勉勵スルヲ親諭ス是以テ該館ヲ振起シ其事業ヲ更張セントスルヤ必ラス費用ヲ定メ之ヲ各家ノ世祿ニ賦課シ以テ支給セシムルハアラス實美等不肖ヲ以テ顯要ニ居リ此聖訓アルニ遭フ焉ソ奮發勉勵セサルヲ得ンヤ然レモ職務繁劇諸君ト共ニ孜孜提撕從事スルヲ能ハス深ク以テ遺憾トス即チ茲ニ在官同族相謀リ金二千圓ヲ醜集シ本館章程ニ掲載スル資本保續金ノ外薄カ此金額ヲ進メ以テ寸志ヲ表ス庶幾クハ之ヲ取納シ其經費



充ノヲ敬白

明治八年十一月

式部權助橋本實梁
 侍從仙石政固
 侍從北條氏恭
 侍從東園基受
 侍從西四辻公業
 侍從綾小路有良
 侍從富小路敬直
 侍從高辻修長
 侍從堀河康隆
 陸軍少佐大河內正賢

外務省上等出仕大原重實
 式部助五辻久仲
 外務大丞宗重正
 式部頭坊城俊政
 侍從長東久世通禱
 宮內大輔萬里小路博房
 宮內卿德大寺實則
 議官秋月種樹
 議官大給恆
 議官柳原前光
 議官壬生基脩
 議官長谷信篤

右大臣 岩倉 具視
太政大臣 三條 實美

華族會館

職員御中

導書

去月七日

聖上這館ニ 親臨シ 華族一般協同從事スヘキヲ
勅諭ス 閣下等顯要ニ在リ 職務繁劇 孜孜從事スル
能ハス 是ニ於テ 乎本館資金定額ノ外更ニ 金二千
圓ヲ 附與シ 以テ 其意衷ヲ 表ス 通房等 惟ルニ 勅
諭ノ 重キ 各自奮發シ 孜孜從事スヘキハ 論ヲ 竣タ
スト 雖モ 官途ニ 在ル者ハ 各其職任ノ 重キアリ之
ヲ 心志ニ 抱クモ 實踐シテ 其意ニ 滿ル能ハス 其レ
之ヲ 如何セシヤ 而ルヲ 閣下等 自ラ 安シセス 此寄
贈有リ 蓋新タニ 事ヲ 創メ 業ヲ 起スノ 際 其經費 將
ニ 不測ニ 出ントス 今此ノ 特別ノ 贈以テ 本館ノ 經

費ヲ禱ク其意ノ厚篤ナル同族ヲ率先シ衆心ヲ作
興スルニ足ル乃チ丞ニ衆員ニ告クルニ盛意ヲ以
テス可シト雖モ茲ニ先ツ鄙衷ヲ陳シ以テ謹謝ス

十一月十九日 華族會館幹事

山内 豐 誠

武者小路實世

萬里小路通房

太政大臣三條實美殿

右大臣 岩倉具視殿

議官 長谷信篤殿

議官 壬生基修殿

議官 柳原前光殿

議官 大給 恆殿

議官 秋月種樹殿

宮内卿 德大寺實則殿

宮内大輔 萬里小路博房殿

侍從長 東久世通禧殿

式部頭 坊城俊政殿

外務大丞宗 重正殿

式部助 五辻安仲殿

外務省六等出仕大原重實殿

陸軍少佐 大河内正質殿

侍從 堀河康隆殿



侍從 高辻修長殿

侍從 富小路敬直殿

侍從 綾小路有良殿

侍從 西四辻公業殿

侍從 東園基愛殿

侍從 北條氏恭殿

侍從 仙石政固殿

式部權助 橋本實梁殿

+

